

## 現地研修会資料

令和元年 8 月 21 日

### <コンテナ苗生産の経緯>

- 2009 年 森林総研の「コンテナ苗に関する意見交換会」に参加
- 2010 年 試験栽培
- 2012 年 オーストリア LIECO 社視察（道苗組海外研修）
- 2014 年 生産規模 10 万本達成（機械導入）
- 2018 年 生産規模 50 万本達成
- 2018 年 スウェーデンの苗畑視察
- 2019 年 生産規模 100 万本の施設整備完了

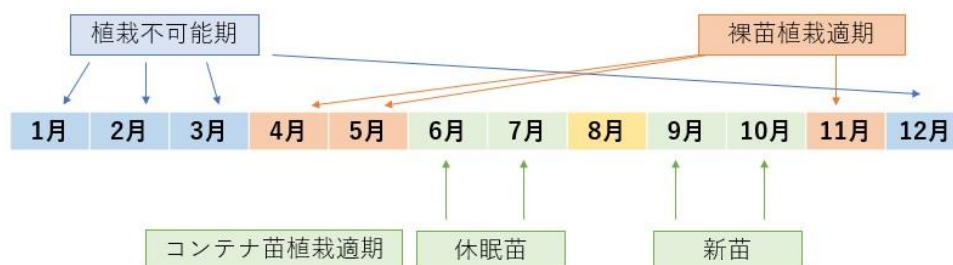
### <省力化の取組>

- ポットイングマシン、ディプラーの導入（10 万本）
- ハウス、灌水設備の増強（50 万本）
- 作業動線、専用ラインの検討（100 万本）

### <コンテナ苗のメリット>

- 北海道では冬の 4 か月は植栽不可能、それ以外で如何に植えるかを考える
- 裸苗との組み合わせで植栽期間が長くなる

## コンテナ苗植栽暦（カラマツ）



<注目している技術・制度>

種子選別機と直接播種

画像診断技術とロボットアーム

働き方改革と北の森づくり専門学院

クリーンラーチ 2.0

<課題>

規模はどこまで大きくすればよいのか？（需要は？）

苗畑規模；オーストリア 700 万本 スウェーデン 2500 万本

コンテナ苗は本当に省力化可能か？

例) 植付作業：裸苗 10000 本/人/日 コンテナ苗 1500 本/人/日

苗畑作業の「カイゼン」は可能か？

生産活動を分解して判断基準を定量化、可視化、客観化

苗木の生理的特性は理解できているか？

<メモ>

ご意見ご質問があれば、いつでもどうぞ！

[matumura@rose.ocn.ne.jp](mailto:matumura@rose.ocn.ne.jp)